

北海道で漁師になろう ⑤

私たちは
家族で頑張る
できたこの
漁師です



長期漁業実地研修により新しい漁師を確保・育成	1
友達はびつくり	3
寿都町歌葉町 森 貴紀さん	
今はスポーツより漁業です	6
利尻富士町鷺泊 大沼 優介さん	
海を見ることが好きです	8
礼文町香深村 中山 卓也さん	
サケ定置網漁業に興味を持っていました	10
稚内市宗谷村 舟橋 直貴さん	
北海道の漁業就業者の動き	12



長期漁業実地研修により 新しい漁師を確保・育成



「スローライフ」、近頃良く耳にする言葉です。スローライフという言葉はスローフードから派生した考え方で、近代の大量生産、大量消費、高速型のライフスタイルに対立する言葉です。地産地消

や地に足を付けた生活スタイルを指すことが多いようです。新幹線などに乗ると、風景は次から次へと過ぎ去っていき、風景の中身を実感できませんが、歩いて移動するとその地域の生活が見えてきます。スローラ

イフとは、歩くように、地に足を付けた生活スタイルを目指して、精神的に豊かな生活を送ろうとする考え方です。

最近の雇用情勢はリーマンショック後の最悪の状態を脱して、少し改善しています。土木や建設業、ホテル業あるいは運送業などでは人手不足が顕

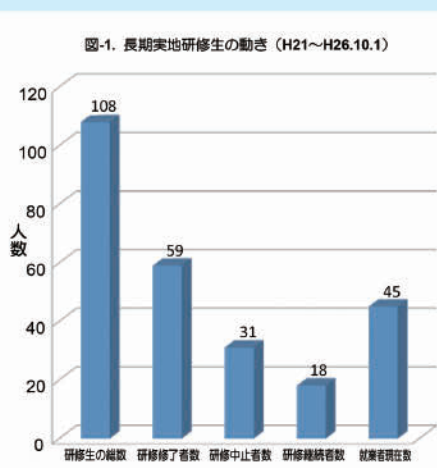
在化しています。そのためか、漁業という一次産業に就こうとする人が少し減ってきています。あなたにとって大切な人生、ここで立ち止まってもう一度考えてみませんか。漁師という職業は厳しく、危険ですが、スローライフを実践できる魅力的な職業です。

北海道漁業就業支援協議会は平成21年度に発足して以降、これまでに（平成26年10月現在）、漁業をやったことがない新規の漁業就業希望者を対象にして長期実地研修事業を行ってきました。研修生の総数108名、現在研修中の18名を除



く90名のうち45名が漁師として活躍しています(図-1)。

長期実地研修について少し説明しましょう。「長期実地研修」とは研修生が長期にわたり漁業現場で指導者とともに実際の漁業を行いながら、技術と経験を得る研修です。研修には雇用型と独立型があり、研修修了後、雇用される人は雇用型、研修修了後、独立する人は独立型の研修を受講します。雇用型では一般の会社員と同じように、研修修了後は指導者や漁業会社に雇用され、研修期間は1年以内、独立型では自ら漁獲し、自ら販売して収入を得ることになり、研修期間は3年以内です。独立するには十分な技術や経験が必要となりますから、研修期間は長く設定されています。

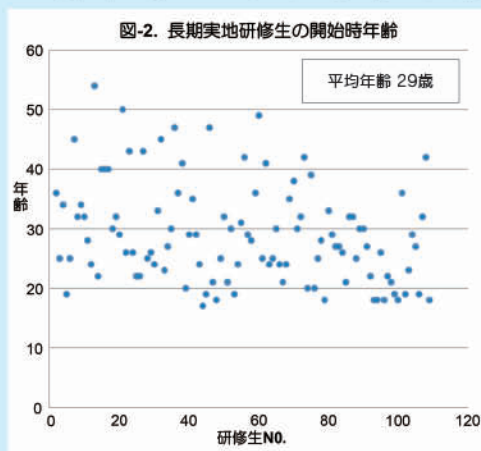


これまで研修生になった人の研修開始時年齢は17～54歳で、各年齢層に広く分布しています(図-2)。平均

年齢は29歳で、農業などと比べるとより若い人が研修生になっています。その多くは独身ですが、配偶者や子供がいる人もいます。研修期間中や就業間もない頃は収入が少ないので、

家族持ちの人にとっては経済的に厳しい生活が待ち受けています。また、都会などに住んでいた人が漁村に住むと、本人だけでなく、家族もカルチャーショックを受け、悩むことがあります。家族で漁村に入るということは、それだけ強い覚悟がいるのではないのでしょうか。

今回、この冊子では、既婚者で研修生になった人と研修修了後すぐに結婚した人を紹介します。彼等は独身者とは異なる経験をしてきた人です。これから漁師になりたい人にとっては彼等の生き方は大いに参考になると思います。



友達 は びっく

すつ さよう だつちよ
寿都町歌東町 ● 森 貴紀さん

平成24年6月の「北海道漁業就業支援フェア in さっぽろ」に参加した森さんは、1年間の研修が修了し、現在寿都町の定置網漁業や底建網漁業を行う漁業会社で漁師として活躍しています。漁師になる前は、大学卒業と同時に不動産会社に勤めましたが、適性がな



定置網を引く森さんと仲間

いと考え、半年後に道内空港の警備員になりました。警備員を1年程勤めた頃から、漁師という職業が気になり始めました。漁師になるきっかけは、元々海が好

きだったことに加え、テレビ番組でマグロの一本釣りを見たことが漁師への興味に繋がりました。また、友達が漁家子弟ではないのに漁師になったことも漁師という職業を身近に感じる要因になりました。そのような時にハローワークで当協議会のポスターを見たことをきっかけとして、インターネットで漁業就業の情報を集めました。獲る漁業に興味があったことから、漁業就業フェアではホタテなどの養殖業ではない、いわゆる網などでの獲る漁業を行っているブースを訪れて漁業や地域などの話を聞きました。地域についてはこだわりはなかったのですが、指導者である小西さんの人柄などが決め手になりました。6月のフェア終了1ヵ月後、森さんは寿都町で1年間の長期研修に入りました。最初は何をやっているのか分からないことが辛く感じましたが、漁業経験と理解が増すごとにだんだん気持ち良くなっていきました。研修を担当した漁業会社は、就労時間(基



漁場に向かって

本的には5ー17時、5時30分ー18時or 18時30分もあり）が比較的はつきりしており、また原則、日曜日は休みなので、生活の計画が立てやすいということがありました。生活の計画が立てられないことを理由に止める新規就業者が意外と多いことから、「計画が立てられる」ということは重要なことだったようです。現在、定置網漁業の他に浅海漁業としてウニ採りを行っていますが、技術向上の実感があり、獲ることが楽しくなってきたと同時に、大事な生活費にもなっていると森さん、奥さん共々語ってくれました。これまで、先輩の漁師仲間や親方からいろいろなことを学んできましたが、実体験の中でやることが理解できたときは楽しいとのことでした。獲るだけでなく、定置網や底建網の網入れにも技術が必要で、漁業はまだまだ奥が深いと感じています。今後、いろいろな漁業を経験してみたいの思いがあるようです。

組合員資格は平成25年4月に取得し、ウニ獲りなど一定期間操業できるようになりました。そのため、新古の磯舟を購



陸の仕事も大切

入し、ウニ獲りなどで使用しています。「たまには遊びでも使用しています」と笑って答えてくれました。

森さんは札幌の高校時代は柔道部、大学時代はボクシング部に所属していたスポーツマン。荒々しい風貌と、激しい闘志を持つ性格を想像しがちですが、実際の森さんは、人なつこく、明るい性格で周りの仲間からも好意を持って接してもらっているようです。森さん夫婦は新規就業者用の町営住宅に入居していますが、もらったり、野菜が玄関前に置いてあることもあるとのことでした。魚はもちろん買うことはありますが、野菜もたまに買う程度で済んでいます。「でも、肉は買っています」と楽しそうに話してくれました。「寿都町には美味しい肉を売っている店がありますよ」と情報提供すると、興味を持ってく



会社の船上で

れました。

奥さんとは空港勤務時代に結婚し、夫婦で現在の住んでいる寿都町に引っ越してきました。「奥さんには反対されなかった？」との問いには、

「反対されませんでした」と即答。森さんは

フェアでの親方の説明で、経済的な不安は解消されていたので、このことを奥さんに話すと、奥さんも不安が解消したことでした。しかし、詳細を知らない友達や仲間に「寿都町に引っ越して漁師をやる」と話すと、さすがにびっくりされたようです。

現在の給料は親方の約束どおりで、生活には問題ありません。現在は漁業協同組合の正組合員になったので、給料の他に配当金や自分が行う漁業からの収入もある程度あり、これら収入も大事な生活費の一部になっています。奥さんが時々働く（漁業の陸作業）収入は服を買う楽しみにあて、家計に

は入っていないとのこと。デパートや大型スーパーのない漁村での生活ですが、隣の岩内町で食料品の買い物もでき、流行の衣服などは遊びを兼ねて出かける小樽や札幌で購入します。

家族で新たな地に来て漁師をしているので、この職業から逃げることはできないと考えています。妻がいることにより家事の苦労は軽減されるし、働く励みにもなっています。今現在、森さんは、今後も漁業を続けていこうと考えています。

新たに漁業を目指す

人には「浜言葉」が分からないのは当然なので、慣れるまでは我慢」とこれまでの苦労を思い、助言してくれました。



慣れるまでは我慢！



森さん夫婦

今はスポーツより漁業です

りつふじまのしほり
利尻富士町 鯉泊

おおなま
大沼 優介さん

札幌生まれ、札幌育ちの大沼さんは、高校卒業後内装業やトラック運転手を経験し、漁師になった典型的な転職組の一人です。彼は、高校生の時に野球部のレギュラーキャッチャーとして全道大会まで進んだスポーツマン。「1回戦で負けました」と無口な男がこっそりと語ってくれました。スポーツが大好きな大沼さんは元々サーフィンをやっていて、現在は忙しいのであまりできないが、それでも島内で年数回楽しむとのことでした。

研修生の時には一人で頑張っていました。研修修了3カ月後の平成24年12月に近所の漁師の妹さんと結婚しました。現在共働きで、奥さ



ベシ峠からの利尻山

んは地元の公民館で働いています。

大沼さんが漁業に興味を持ったきっかけは、札幌の友達（奥尻の旅館の息子）から漁業の話聞いたことでした。この友

達は潜水による漁獲を漁業協同組合から毎年頼まれている

人でした。「サラリーマンが自分に適しているのかな？」と疑問を持っていた大沼さんは、彼の話聞くうちに、自分のために働き、働いた分だけ自分に返ってくる漁師という職業に魅力を感じたといいます。

以前、利尻島に遊びに行った時、良いところだなと感じたそれだけで、利尻島の利尻漁業協同組合沓形支所に電話をし、「漁師になりたい」と話したところ、「無理ですね」と断られました。組合の本所と支所の区別もつかぬまま、さらに同じ組合の鬼脇支所に電話したところ、当協議会が主催する「漁業就業支援



たくましくなった大沼さん

フェアに参加してみたら」と教えられたそうです。

平成23年6月に開催された札幌でのフェアに参加した大沼さんは、指導者となる高橋幹雄さんに会います。就業に向けた話し合いをした後、この人にお世話になろうと決めたそうです。研修漁業はコンブ養殖とウニ採りを中心とした採介藻漁業です。この二つの漁業の研修を受けることにしたのは、これら漁業が利尻島を代表する漁業だからです。好きな利尻島で、興味のある漁業だからなのか、研修中は辛いことはなかったそうです。た

だ、ベテラン漁師と比較すると自分の未熟さがよく分かり、さらに漁を重ねて技術を磨きたいと考えています。そのこ

とが、自分のために働き、働いた分だけ自分に返ってくることに繋がるからです。

研修中の平成24年5月に組合員資格を



コンブ採りが終わりました

取得し、今は自立して採介藻漁業（ウニ採りやコンブ採り）

を行い、コンブ養殖業やナマコ桁引き、オオナコ刺網、サケ刺網あるいはホッケ刺網などの漁船漁業の手伝いを行うなどして生計を立てています。現在の生活に不満はなく（新婚ですから）、奥さんの勤務時間外にはウニ剥き、コンブ干しなどを一緒にやることもあります。漁師の仕事はどうしても一人ではできない部分があり、今は二人なのでその部分でできているとのことでした。「将来は採介藻漁業以外でも自立していきたい」と将来の夢を語ってくれました。

新たに漁師を目指す人へのアドバイスは、一言「漁師をやるうとする強い気持ち」。



ウニのカラ剥き

早く自立して
一人前の漁師に！



海を見ることが好きです

礼文町 香深村

中山 卓也さん

高校卒業後、プロのバスケット選手を夢見て渡米。語学学校で英語を習いながら、同じ夢を持つ仲間と練習するも、プロテストに合格できずに帰国しました。その後、札幌の建築会社で働くことになりましたが、いまひとつ満たされないものを感じていました。彼の祖父はかつて利尻島で漁師であったこと、自身釣りが好きであったことなどから

利尻富士を望む漁場

島での漁業という職業に憧れがありました。そこで、インターネットにより情報を収集したところ、漁業就業支援フェアの存在を知り、平成24年2月の旭川フェアに参加しました。



研修時の中山さん家族

ん。コンブ養殖業や採介藻漁業の研修が修了した後、独立してコンブ採りやウニ獲りなどの採介藻漁業を中心に、刺し網漁業の乗り子、コンブ養殖業の手伝いなどを行っています。

フェアには利尻島や礼文島の漁師の人達が来ていましたが、親方の印象から礼文島の夏堀さんにお世話になろうと思いました。

札幌で暮らしていた時に結婚し、礼文島には親子3人で渡りました。研修期間は子供が小さかったので大変でしたが、子供も少し大きくなり、奥さんが中山さんを手伝うことができるようになりました。奥さんは漁師の家族は想像以上に大変と感じていますが、それ以上に「やらなければ」いう強い意志を持っています。中山さんは、「来年から子供を保育園に通わせるので、彼女も少し楽になるかな・・・」と考えてい

ます。

小さい体の中山さんですが、バスケットのプロを目指すほどですから、体力には自信がありました。それでも、想像以上に漁師の仕事には体力が必要と感じています。

平成25年3月に研修が修了して、同年4月には組合員資格を取得しました。中山さんは漁師仲間から譲り受けた磯舟を漁にレジャーにと活用していますが、手を広げることに経費の面で不安があ

るものの、将来は5トン程

度の漁船を持ち、採介藻漁業を中心に刺し網漁業、タコいさり漁業などをやってみたい思いがあります。

漁師になる前は釣りとドライブが趣味でしたが、現在はやっていません。その代わり、



養殖コンブの維持管理



明日のための網の修繕

手に入れた磯舟で海に出て、そこで礼文島周辺海域の絶景を眺める時間が楽しいと漁師とは違う顔で語ってくれました。

平成25年3月には当協議会の事業を活用して二級船舶操縦士免許を取得しましたが、さらに上の一級の免許を取得したいと強く語ってくれました。奥さんと子供の3人暮らしの中山さんは、家族思いの、向上心のある若い新米漁師さんです。

漁師になりたい人への一言は、「体力が必要です！」。



体力つけて
定寿で頑張ってます！



子供はあっという間に大きくなりました

サケ定置網漁業に興味を持っていました



ちゅうないしぎやうむらやま
椎内市宗谷村東浦 ● 舟橋 直貴さん



漁労作業中の舟橋さん

椎内市宗谷村東浦は椎内市の中心から約40キロ離れたところに位置し、ネオンとは無縁なところです。椎内市街が日本海であるのに対してこの地域はオホーツク海に面しています。オホーツク海は誰もが知る定置網漁業によるサケの一大生産地です。以前から、舟橋さんは定置網漁業に興味を

持っていて、漁業をやるなら定置網だという思いがありました。

舟橋さんは高校を卒業後、暖房設備会社や重量物運搬・設置会社あるいは車解体業会社の社員などを経験しましたが、好きな釣りをしている時に目にとまる漁師が気になっていました。何度も漁師を見ているうちに、

一年中魚を獲っている漁師という職業に興味を持ち、自分もやってみたいと思うようになりました。

そのような時に、当協議会のホームページを見て漁業就業支援フェアの存在を知り、平成25年2月に旭川市大雪ワリスタルホールで開催されたフェアに参加しました。漠然としたものでしたが、定置網に興味を持っていたので、定置網漁業の研修でフェアに来ていた現在の指導者である石井さんの出展ブースでいろいろ話を聞きました。また、指導者の漁場はサケ定置網漁業の本場、オホーツク海ということも惹かれる要因でした。

念願叶い、石井さんから指名された舟橋さんは、平成25年5月から研修に入りました。研修漁業種はサケ定置網漁業とタコ籠漁業。舟橋さんは、札幌では奥さんと子供二人の四人で暮らしていましたが、研修中は単身で頑張ってきました。

研修中は覚えることが多くて、毎日が辛いと感じましたが、現在は漁業にもだいぶん慣れて、辛さは軽減されました。漁師は大漁の時は大変うれしいものですが、彼はその後の作業が繁忙となるため、単純には喜ばなかったと語ってくれました。しかし、沖に出た時は緊迫感があり、そのため仕事への充実感もあるとのことでした。いろいろな思いはあるものの、沖での漁労作業は「好き」とはっきり述べてくれました。

また、多くの研修生が陸での網修理作業などは海上作業と比べてあまり好きではない人が多いですが、彼は意外と網修繕が楽しいとのことでした。「陸と沖ではどちらが良いの」との質問に、「でも、やはり漁労作業の方が良いかな」と笑って答えてくれました。漁業就業して約半年、今現在は漁業を続けていこうと強く思っています。

東浦は稚内市街まで1時間ほどかかり、買い物や病院利用などには苦労します。とくに、家事を預かる奥さんは食料の買い物には不便を強いられているようです。また、子供がまだ小さいので、病院を利用することが多いですが、近辺に総合病院がないことから、稚内市街や札幌の病院を利用することもあります。奥さんの楽しみは、外食や子供の友達との交流ですが、慣れない漁家生活に複雑な思いや不安もあります。しかし、奥さんも釣りが好きで、港で手力釣りなどを楽しんでいるとのことでした。生活安定のために奥さんも働きたいのですが、この地域の保育園は3歳からなので、入園させるにはあと1年以上待たねばなりません。奥さんは、子供が3歳になったら働くことができ、家計の助けになると考えています。

舟橋さんは、研修期間中単身でしたが、今は毎日家族と一緒に生活です。家族とのふれあいは心の支えになっていて、

単身の時と異なり、折れる気持ちになることは少なくなっています。彼は、自分のやりたい仕事のために札幌から家族を呼び寄せたので、都会と比べての不便な思いをさせていることに申し訳ないという思いがあります。

漁業としては定置網漁業、タコ籠漁業あるいはサケなどの加工を行っていて労働時間は基本3-15時、忙しい時には3-17時、閑散期は5-14時です。

平成26年4月に家族が札幌から引っ越してきたため、親方の番屋での居住を止め、稚内市の教員住宅に移り住み、家族一緒に生活が始まりました。子供さんは7歳と1歳で手はかりますが、かわいい盛りです。

舟橋さんはこれまでの職歴から、大型一種、牽引、大型特殊、フォークリフト、建設機械、小型二級船舶操縦士及び二級海上特殊無線などの多くの免許を取得しており、経験を積みめば漁業でもそれらの資格が役に立つでしょう。

これから漁師を目指す人に一言、「とにかくやる気が必要だ」。

やる気が大事!



舟橋さん家族

北海道の漁業就業者の動き



本道の漁業就業者数は1989―2007年ではほぼ直線的に減少し、減少数は年平均約930名でした。2008―2013年でも直線的に減少していますが、若干その減少率は小さくなり、減少数は年平均約690名です(図-3)。

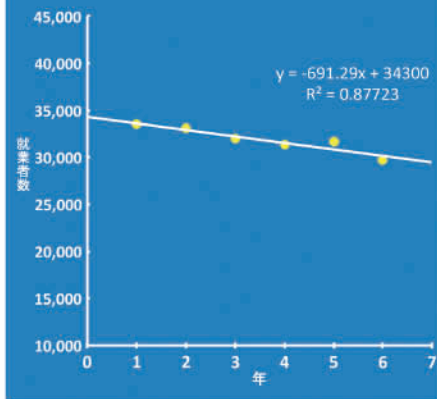
それに対して、漁家子弟を含めた2008―2013年の新規漁業就業者数は203―256人(平均220人)であり、

最近の減少数690人／年＋新規就業者数220人／年

＝910人

の式から毎年910人が漁業を辞めていることとなります。つまり、就業者数の減少を食い止めるには毎年910名が新規に就業しなければ

図-3. 漁業就業者数の変動傾向(2008-2013年)
(X軸の1は2008年、6は2013年)



ばなりません。

また、年齢構成もこれまでの25年間ほとんど変わりません(図-4)。直近の2013年の年齢構成を見てみると、15-64歳では年齢が高いほど就業者数が多い歪な年齢構成になっています(図-5)。このように年齢の高い人が多い構造は、漁業と

図-4 漁業就業男子の年齢構成(北海道)

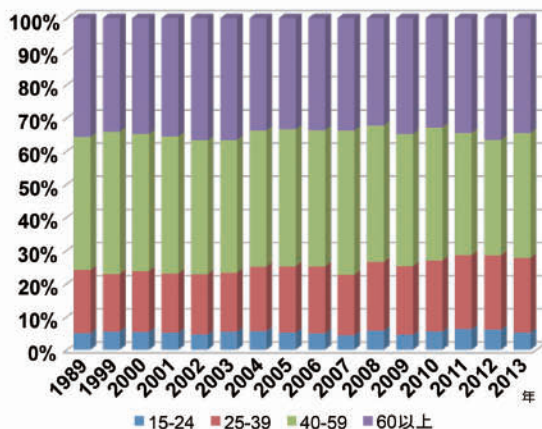
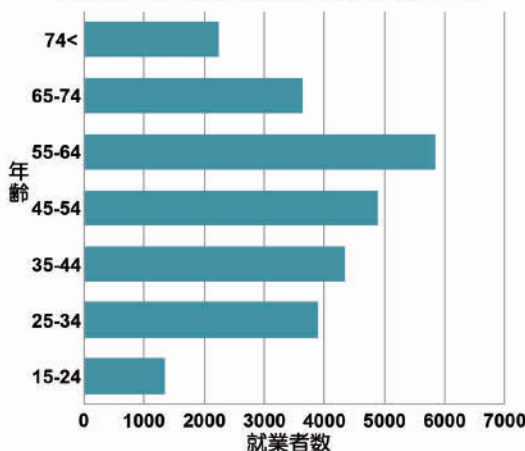


図-5 男子漁業就業者数の年齢構成(2013年)



いう産業に大きな問題を投げかけています。

これからも、ここで紹介したような若い漁業者が新規に参入してくるよう努力していく必要があります。



<http://h-suisankai.or.jp/conference/>

上海音乐家协会 ▶ | 上海音乐家协会文工团 ▶ |

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目
北海道水産ビル 北海道水産会内



長取実地研修とは

[これまでの情報一覧▶](#)[illegible]

刊行物 MAGAZINES

- 北海道で漁師になろう 3
- 北海道で漁師になろう 2
- 北海道で漁師になろう
- 漁師という人生 3
- 漁師という人生 2
- 漁師という人生 1

各種の情報を集めましょ

● 各種の情報を集めましょう

北海道への移住情報（道庁）	北海道への移住情報（民間団体）	市町村情報（道庁）	北海道の水産情報（道庁）
北海道立農業研究センター	マリンキャスト北海道	北海道の農業団地（水産試験場）	ぎょれん
全国漁業経営者研修センター			

[HOME](#) | [サイトマップ](#) | [個人情報保護情報](#)

〒060-0005 札幌市中央区北3条西7丁目 北海道水産ビル 北海道水産会内
TEL: 011-280-3007 FAX: 011-280-3008
E-mail: info@hokkaido-aquaculture.or.jp

[▲ページの先頭へ](#)

Copyright©: 2012 Hokkaido Fisheries Association.

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目
北海道水産ビル 一般社団法人 北海道水産会内
TEL 011-280-3007 FAX 011-280-3008
E-mail fish01@h-suisankai.or.jp

TO.B.B